

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第15号-1 R2.2.28

能勢ささゆり学園 教育委員会先進校視察研修 **その1** (令和2年1月22日(水))

小中一貫教育の先進的な取組みをされている学校や市町村を視察させていただくことにより、本町の取組みに活かすため、「教育委員の先進校視察」を8月より実施することとしました。今回は「能勢ささゆり学園」の視察内容をお知らせいたします。

《学校紹介—能勢ささゆり学園》

能勢町の小中学校を小学校1校、中学校1校体制に再編したことにより2016年に開校。府内の自治体で、統廃合によって小学校、中学校が1校になるのは能勢町が初めて。再編計画は2009年に方向性が定められた。2012年に閉鎖されたおおさか府民牧場の跡地に新学校を建設することとなった。



今回は町長、副町長、学校関係者、PTAの方々を含め総勢18名で視察しました。



広々としたきれいな廊下



光が差し込むメモリアルホール

(感想抜粋— 川村教育委員様)

コミュニティー・スクールは、発足して4年で、地域の人と協力し、様々な活動を行っている。地域の人たちにとって、ささゆり学園は、地理的、心理的に「遠い」と感じているとのこと。子供がいない人にとっては特にそうである。うまくいっている取り組みとして、地域の人にボランティアを依頼したランチルームでの給食がある。子どもたちにとっては、給食の準備時間が短縮できるので、お昼休みを長くとれるようになった。先生の負担も軽くなった。子どもたち、先生の両方にとって良い取り組みとなった。ボランティア側のメリットは、子供と親しくなれる、元気をもらえるところ。

(感想抜粋— 太田教育委員)

大きな窓から能勢の山々が見える眺めの良いランチルームを見学しました。ちょうど給食配膳が始まるところで、食育ボランティアのお二人と学校支援コーディネーターの方が準備されていました。学年ごとにランチルームを交代で給食時間に使用し、その間学年の先生方々は交流することができ業務改善にもつながっています。栄養教諭の方が付いていますので、アレルギーの子どもさんの食事の確認もでき、献立の栄養についても説明します。

(感想抜粋—ふたば園PTA書記 和田様)

コミュニティー・スクールのお話や統合してからの子ども達の様子、先生方が大変だったお話もお聞きし、統合してからが始まりなのだなど改めて感じました。

何よりも学校をより良くしていこうという先生方の前向きな気持ちが伝わってきましたし、ボランティアさんが常に出入りし活動されているお話も印象的でした。

ボランティアさんの力はとても大きくて頼もしいのはどの地域でも同じで、大切な存在だと改めて感じました。同じ少子化の問題を抱えている豊能町の保護者として、とても参考になる学校でした。



ランチルームの約束事

その②につづく